

## 第2章 通常学級でできる 特別支援教育の「王道」

私は今、全国各地の授業を参観する機会があることを幸せに思っています。子どもたちがそれぞれの年齢・発達段階に応じ、キラキラ輝くように学ぶ姿を見ると、「私も頑張ろう！」という気持ちになります。

子どもたちの輝く姿は、自然に生まれたものではなく、先生方のさまざまな教育的アプローチが奏功してのものです。それゆえ、私は、授業参観の際、いつも心のなかで、子どもたちにも先生方にも拍手を贈っています。そして、特に大きな拍手を贈っているのが、「気になる子」が溶け込む学級・授業に出会ったときです。

本章では、私の経験と各地の先生方に学んだことをすり合わせ、通常学級でできる特別支援教育の「王道」として提示します。辞書には複数の意味が記されている「王道」ですが、私は「最も正統的な道」（『明鏡国語辞典』）にとらえ、本章を書き進めていきます。子どもを育み、学級をつくる方策には多くのものがあります。それらの方策を「道」と見るとき、最も広い通り（メインストリート）が、私が考える「王道」のイメージです。



## 「王道」は学級経営：「ハンカチ理論」

「気になる子」が在籍する通常学級の授業を参観し、私がこれまで大きな拍手を贈ったのは、秋田県のX先生（小学校4年生の担任）、三重県のY先生（小学校6年生の担任）、愛知県のZ先生（小学校4年生の担任）の3人です。各先生方に授業参観後、話をうかがったところ、X先生は「周りの子どもたちを育てたら、気になる子も育った」、Y先生は「気になる子を支える周りの子どもたちの力は、教師1人の支援をはるかに超えていた」、Z先生は「周りの子どもたちの協力がなければ気になる子は育たなかった」と話してくださいました。

3人の話に共通したのは「周りの子どもたち」という言葉。特殊教育を学び、障害のある子の担任を長く続けてきた私にとって、「周りの子」に目を向けるという感覚はそれほど強くなかっただけに、とても印象深い言葉でした。

その後、ある教育書（親野、2006）のなかで「ハンカチのエピソード」に出会ったとき、「3人の先生方の話とまったく同じだ！」と驚きました。

### 【ハンカチのエピソード】（概要）

ハンカチのほつれた糸を持ち上げても、糸が切れ、ハンカチは持ち上がらない。ハンカチ全体を持ち上げれば糸も上がる

「気になる子」（糸）だけを持ち上げよう（育てよう）とすると

「糸」が切れて「ハンカチ」（周りの子・学級）が落ちてしまいます。だから「ハンカチ」全体を持ち上げる。そうすれば「糸」も一緒に持ち上がる、ということです。私はこれを

## 理論1 **ハンカチ理論**

と呼んでいます。

「ハンカチを持ち上げる」、すなわち、教室のできる特別支援教育の「王道」とは「学級経営」のことなのです（曾山、2014）。

### 学級経営とは何か

みなさんは、「学級経営とは何ですか？」と尋ねられて、すぐに答えることができるのでしょうか？ 私は若い頃、学級経営も学級づくりも同じようなイメージでとらえ、頭の中がごちゃごちゃしていました。そんな私が自分の実践とすり合わせ、「ストーン」と心に落ちたのが、次の学級経営定義です（吉田・大森、1999）。

学級担任が学習指導、生徒指導の両面にわたってその教育機能を十分に発揮できるように、学級におけるさまざまな条件整備を行うこと。

國分康孝先生は、「定義というのは各人各様でよい。要はその人の言動の一貫性の基になればよいのである」（國分、1980）と述べています。私はその言葉に背中を押され、上記の学級経営定義を「学びの引き出し」に入れています。たしかに、国語・社会などの学習指

導をする上でも、子どもの「自己指導能力」育成を目指して生徒指導を行う上でも、いろいろと知恵を絞ってきたこと、それらが言葉を換えれば「条件整備」であったことを今、あらためて振り返っています。

なお、この定義は1999年のことであり、2007年、知的な遅れを伴わない発達障害児までをその対象に広げた特別支援教育がスタートして以降は、「学習指導と生徒指導」に「特別支援教育」も加えた定義にするとよいのではないかと個人的には思っています。



## 担任が行う主な条件整備

学級という「畑」にさまざまに手を入れ、そこが豊かな土壌となったならば、子どもという「種」は、学習指導・生徒指導という日々の「水・光」をぐんぐん取り入れ、やがて、「知識・技能」「思考力・表現力・判断力」「学びに向かう意欲・人間性」という3本柱によって構成される学力の「花」をきれいに咲かせることができます。

さまざまな手の入れ方が担任が行う「条件整備」ですが、吉田・大森(1999)の知見と、私の経験をすり合わせ、主に次の4つを挙げて具体例を述べます。

### 【担任が行う主な「条件整備」】

条件整備1：学級目標づくり

条件整備2：学級（集団）づくり

条件整備3：教室環境づくり

条件整備4：保護者との関係づくり